

「人権を聞こう語ろう わが家でも」11月号

～「こころの扉」を少し開いてみませんか～

みなさんは「人権」や「差別」について日頃どのくらい意識していますか。また、意識するのはどんなときでしょうか？

県が令和5年度に実施した人権に関する県民意識調査で「人権に関心がある」と答えた人の割合は約7割（平成30年度の前回調査より22・4%増）にのぼり、全体的な意識の高まりが見られました。分野別では、インターネットでの中傷や差別、性的少数者を巡る問題への関心が最も伸び、次いで性的指向8・7%増、性的違い8・3%増、外国人5・4%増の順だったことも明らかになりました。県は、ネット上での誹謗中傷、LGBTQに対する理解促進の動き、在留外国人の増加など、メディアを通じて人権問題を知る機会が多かったことが影響してい

るのではないかとみています。

普段、私たちは特に人権を意識することなく過ごしています。そして、気づかないうちに人を傷つけてしまうこともあります。また、自分は差別されているわけではないし、人を差別しようと思ってもいないので、人権は自分に関係のない話で関心はないという人もいます。しかし、毎日の身近な生活の中で人権に関わる問題は起きています。意識しないと見えないこともあります。私たち大人は、差別意識を持たない子どもに對して、偏見を伝えないようにしなければなりません。まずは親自身が偏見を持たず、差別をしないということ子どもたちに示していくことが大切です。

21世紀は「人権の世紀」と言われています。互いの人権を尊重しあって、誰もが安心して暮らせる社会

になるように努めたいものです。「人権を聞こう語ろう わが家でも」を言葉に、家族で人権意識を高めていきませんか。

